

## 平成26年度第1回 「知事と一緒に生き生きトーク」の発言要旨

- 1 テーマ：地域の力を学校へ
- 2 日時：平成26年5月2日（金）10：15～12：00
- 3 場所：赤磐市立高陽中学校 校長室
- 4 参加者：高陽中学校校長、赤磐市・備前市の学校支援地域本部の方々 8名
- 5 知事挨拶

「教育県岡山の復活」のために学校・家庭・地域の連携は非常に重要と考えている。地域の方々による学校支援の実情を聞くことができ嬉しい。効果が上がっているよい取り組みを他の学校へも伝えていくことが支援拡大につながると思う。岡山県の子どもたち、地域の未来がより良くなるために、有意義な意見交換をしたいと考えている。

### 6 発言内容等

- ・読み聞かせ活動を呼びかけるとたくさんのボランティアが集まってくれた。自分も皆さんも楽しくできた。学校への敷居が低くなり、学校の違う面が見えてきた。
- ・最初は生徒たちからのあいさつも少なかったが、活動を続けていくうちに遠くからあいさつをしてくれるようになり嬉しい。一緒に活動していると子どもたちの様子がよく見えるようになった。
- ・地域の子どもという目で見ることができ、自分で声かけをするようになった。活動に対するお礼状を読んでみると、子どもたちが自分たちをよく見てくれていることが分かり、ボランティアをやっていて良かったと思えた。
- ・長く活動を続けるためには、「できること」を「できるとき」にすればよい。教育や子育てはタイムラグがあり、10年後に成果が出ればよい。しかし、支援の本筋はそれないようにしたい。
- ・ボランティアに参加したい気持ちはあるが、学校から要望が出ないと参加しにくい。
- ・学校での支援活動は、ボランティアの方の要望を実現する場ではないことを認識して欲しい。
- ・家庭教育支援は全国的課題である。学校支援地域本部に保護者をどのようにして巻き込むのか。どのようにして参加する保護者数を増やすのか。よい具体策が見つからない。
- ・保護者のボランティアの参加について、保護者への呼びかけ方が難しい。保護者の意識改革が必要である。子どもが大きくなるにつれて保護者のつながりや関わりが少なくなっているように感じる。
- ・学校の先生は異動で替わるが、子どもを見守る地域の人々は替わらない。地域はその生徒の成長をずっと見守り続けている。
- ・今後も地域で子育て、見守りを続けたい。そして、地域を盛り上げたい。

### 7 知事のまとめ

- ・ボランティアの皆さんが、自分の子ども、地域の子どものために時間や力をかけてくださっていることがよく分かった。
- ・ボランティアの皆さんの支援によって、子どもたちに良い変化があるというのは、嬉しいことである。そして、学校の敷居を低くして、地域のいろんな人が学校支援に携わっていただくことが大切である。
- ・多くの方にとって学校は敷居が高く、学校の大変な現状に気付いていない。大変さに気づいてもらい、地域ぐるみで支援してもらうためには、行政としても、地域の方が学校活動に参加しやすくするための工夫をする必要がある。